

インフォメーション

問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp

ロッカー・レターケースの利用者二次募集!

募集数：一次募集締め切り後、募集定数に満たない募集数を二次募集します。一次募集にて定数に達している場合は、申込みいただけません。
使用期間：2017年9月1日～2018年8月31日
対象：継続的に市民公益活動を行っている団体(事業者を除く)
応募方法：市民活動サポートセンターで配布する申込書・団体紹介シート・システム情報入力シートに必要事項を記入し、団体の活動内容がわかる資料を添付して1階窓口にお持ちください。(申込み書類はホームページからダウンロードできます。)
先着順受付：先着順にて申込みを受け付けます。申込みの順に利用者を決定し、定数に達し次第締め切ります。
受付期間/時間：2017年8月3日(木)より 9:00～21:00(日曜・祝日は17:00まで)

使用料	
ロッカー(大)	1,200円/月
ロッカー(中)	810円/月
ロッカー(小)	400円/月
レターケース	無料

ロッカーの申込みについて

二次募集の受付では、最大3台までの利用を受付ますので、一次募集にて複数台をご希望の団体には、この二次募集にて申込みいただけます。また、一次募集にて1台決定通知を受取済の団体で、引き続き複数台利用の場合は、「使用申込書」のみ、改めてご提出ください。尚、ロッカー(大)とロッカー(中)の2台使用は不可です。

サポセンスタッフから



「地域のために何かしたい」若者を、市民センターとともに応援しています!

サポセンでは、地域機関と連携して、地域で活躍する人を応援しています。今年度も宮城野区中央市民センターの若者社会参画型学習推進事業(※)「まいぶろ・かべしんぶん部」をお手伝いしています。市内の大学生・高校生が地域の人々や商店街、施設取材し、壁新聞を作って地域の魅力を発信します。サポセンは、企画内容の相談に関わり、宮城野区中央市民センターの職員のみならず、部員の活躍を見守っています。6月24日(土)と7月8日(土)は、2つのグループに分かれて八幡町商店街と原町商店街を訪問し、取材も行いました。壁新聞の完成は8月末を予定しており、宮城野区中央市民センターやサポセンなどで見ることが出来ます。活動の様子は、サポセンブログをご覧ください。(佐藤)



※若者社会参画型学習推進事業は、若者が地域の様々な人と交流しながら、地域づくりに関わり、学びや成長の機会にすることを目的に、各区中央市民センターで実施されています。

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい/団体を立ち上げたい/組織運営の悩みを解決したい/他の団体や他のセクターと連携したい/自分のスキルを地域や社会に役立てたい...

今月の休館日：8月9日(水)、23日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ/地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
[HP]http://www.sapo-sen.jp [Blog]http://blog.canpan.info/fukkou/ [Twitter]@sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

市民ライターや学生記者が、仙台の市民活動団体やワクワクビトを取材しています!

▶市民ライター
http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1
▶情報ボランティア@仙台
https://ja-jp.facebook.com/jyoho.volunteer.sendai

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。

▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート]サポセンホームページからアクセス
いただくか、携帯電話等でQRコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター
発行日 2017年8月1日
編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 太田貴 菅野祥子 松村翔子 鈴木美紀 宮崎真央 小野真璃子
発行部数 3000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと 8

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2017 No.216

「ぱれっと」には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月の
ワクワク
ビト

破牙神ライザー 龍

子どもたちの為に
立ち上るヒーローたち

破牙神ライザー龍は、2011年10月から宮城・福島・岩手の被災地にある保育園、幼稚園、児童館などの児童施設を年間200回以上訪問しています。子どもたちに、思いやりや命の尊さを伝えようと、交通安全教室や防犯教室などを無償で開催しています。

龍の誕生は、「被災地で不安を抱えた子どもたちを元気づけたい」という大人たちの想いがきっかけでした。過去に東北地区のキャラクターショーで活躍したスーツアクターや音響ミキサー、MCなどの有志が、コンセプトやストーリー、キャラクター造形など細部にまでこだわり、クオリティの高いヒーローを制作しました。

「道路は手を上げて渡ろう」「苦しいときも諦めずに頑張ろう」。子どもたちにとって憧れのヒーローとの約束は、また会いに来てくれるまでの心の拠り所になりました。

ヒーローとは、誰かに希望を与えるすべての人。龍は、今日も被災地のどこかで、誰かの想いをまとい、子どもたちを笑顔にしています。

取材・執筆 市民ライター 泉 久恵

©Nonprofit Organization HERO

特集

障がいに対する誤解や偏見をなくす

音楽で交流する「きっかけ」の場づくり

特定非営利活動法人HERO

HP http://ryuproject.com/

破牙神ライザー龍は、HEROが運営するオリジナルヒーローです。宮城県大崎市や多賀城市にあるアラハバキ神社から名付けられ、地元の歴史にちなんで作り込んだ設定が魅力です。被災地を巡るリュウプロジェクトの他に、病氣や怪我で髪の毛を失った全国の子どもたちに無償で人毛のウィッグを送る「ヘアードネーション」をしています。メンバーは学生から50代までの16人。現在、防災教室も思案中です。公演スケジュール、依頼申込みはホームページから。



障がいに対する誤解や偏見をなくす 音楽で交流する「きっかけ」の場づくり

「障がいを理由に乗り物の乗車を拒まれた」「アパートを借りようとしたら障がい者には貸せないと断られた」など障がいを理由とした差別が社会にはあります。背景には、障がい者に関する知識不足や、接する機会の不足があります。障がい者に対する理解を広め、誤解や偏見をなくすため、市民団体と行政が音楽を使って障がいのある人とない人がコミュニケーションをする場づくりを紹介します。

音楽のチカラで心のバリアを打ち壊そう!

とっておきの音楽祭実行委員会 SENDAI



実行委員長
いとうせいいち
伊藤清市 さん



企画プロデューサー
きくちあきのり
菊地昭典 さん



事務局長
きくちならき
菊地新生 さん

障がい者のことをもっと理解してほしい

仙台市健康福祉局障害福祉部障害企画課



企画係 主査
いがらしみかこ
五十嵐美香子 さん

仙台市市民協働事業提案制度「表現活動による障害者差別解消・障害理解の促進に関するPR事業」TOGETHER ACTION PROJECT(TAP)
開催日：平成28年12月～平成29年3月(全10回、のべ300名参加)
協力者：小野詩織(ダンサー)、千葉淳子・穴戸素子(東北ドラムサークルファシリテーター)、ベッカー(打楽器奏者)、森田かずよ(義足の女優・ダンサー)、ヴィクトル・ウーゴ・ナガマ(美術家)、SAYA(ダンサー)など多数

障がいのある人もない人もともに楽しむ

障がいのある人もない人も気軽に参加し、ワークショップやトークセッションと一緒に楽しむことができる「TOGETHER ACTION PROJECT(以下、TAP)」。

2016年12月～2017年3月の間に10回、仙台市内で開催されました。とっておきの音楽祭実行委員会 SENDAI(以下、実行委員会)と仙台市障害企画課が、障がいのある人とない人の交流の場として企画しました。

参加者は、ダンス、打楽器演奏などの表現を体験。ダンスでは聴覚障害のある人が、振動によって音を体で感じることができる「抱っこスピーカー」を抱えて障がいのない人と一緒に体を動かしました。打楽器演奏では、障がいの有無に関わらず、見知らぬ同士が輪になり思い思いに叩き、初めはバラバラだった音が、次第に全体でアンサンブルになっていきました。実行委員会で企画プロデューサーを務める菊地昭典さんは、「ダウン症の女の子が、その場で知り合った人と意気投合し互いに楽しんでいる姿が印象的だった」と会場が一体化した様子を話します。

お互いの違いを認め合える社会に

実行委員会は、2001年から「音楽のチカラで心のバリアを打ち壊そう!」をコンセプトに仙台市中心部で「とっておきの音楽祭」を毎年6月に開催しています。心のバリアフリーを目指す屋外の音楽祭です。

一方で障害企画課は、障がい者差別解消や障がい理解の促進に取り組んでいます。誰でも参加できる対話の場「ココロン・カフェ」を年10回以上開催するなど、障がいのある人への理解と交流の促進してきました。「家族や職場、友人など身近に障がいのある人がいないかぎり接する機会は少ない。交流の機会を多く作りたい」と、担当の五十嵐美香子さん。そこで、平成28年度の仙台市市民協働事業提案制度を活用。同じ思いを持っていた実行委員会と協働で、TAPを行うことになりました。

TAP開催において、実行委員会は音楽祭のノウハウを活かし、音楽を使った誰でも参加しやすい企画を作り出しました。障害企画課は実行委員会だけでは伝えきれない福祉関係施設や、市民に広く開催



連絡先
・仙台市健康福祉局障害福祉部障害企画課
TEL 022-214-8163 FAX 022-223-3573
・とっておきの音楽祭実行委員会 SENDAI/NPO法人とっておきの音楽祭
TEL 022-265-0980 FAX 022-716-5717 HP <http://totteokino-ongakusai.jp>

情報を発信。その結果、毎回新しい人の参加がありました。実行委員会事務局長の菊地新生さんは「障がいのある人ない人、小さな子ども連れのお母さん、高校生や高齢の方。多様な参加者が音楽を通して、思い思いのスタイルで楽しみ、お互いをわかり合う場となった」と、TAPの成果を振り返ります。

心のバリアを取り除くための種まき

障がいのない人が障がいのある人との関わり方を知らないことで戸惑ったり、障がいのある人が周囲に遠慮したりすることで心のバリアは生まれます。実行委員会委員長の伊藤清市さんは、「人はひとりひとり違うもの。障がいのある人もない人も、その違いを認め合うことが大切」と心のバリアを取り除くためのヒントを話します。実行委員会と障害企画課は、お互いの強みを生かし、今後も新たに音楽を使った交流の場作りを企画中です。誰もが暮らしやすいまちを目指す種まきはこれからも続きます。(取材・文 松田照子)

お役立ち本 都市をたたむ ー人口減少時代をデザインする都市計画ー

人口増加に伴い拡大を続けてきた都市が、人口減少に転じたことで空家などの空洞が生じてきています。本書では小さな空洞を抱える都市をスポンジに例えています。都市をいかにたたんでいくかが未来の課題です。縮小する都市の「ポジティブな未来」を考察する新時代の都市論、サポセンで7月開催した「マチノワラボVOL.2」のゲストの著書です。参加できなかった方にもオススメの一冊です。



お役立ち本 盲導犬の育成を支えるボランティア

盲導犬の育成には、訓練士などの専門職以外にも、多くのボランティアが関わっています。盲導犬のことを知り、育成費用を募るイベントボランティアや、盲導犬候補の子犬を育てる「パピーウォーカー」など、様々な活動があります。「犬は好きだけど、自分でできるかな?」という方、まずはお問合せください。

【問い合わせ】
公益財団法人日本盲導犬協会 仙台訓練センター(スマイルワン仙台)
HP <https://www.moudouken.net/center/sendai/>
TEL 022-226-3910 FAX 022-226-3990



ここチェック 手仕事小物と焼き菓子のお店 エフブンノイチ

仙台駅近くにある、障がいのある仲間たちが作る雑貨や焼き菓子のお店です。型にはまらない個性あふれる作品は全てが手作り。「1/f(エフ分の1)」は無意識に心地よく感じる音や現象のこと、そんな1/fを感じるあなたの「一点物」をここで探しませんか?
営業時間:11:00~16:00(土・日・祝日休み)
場所:仙台市青葉区中央3丁目3-5(日乃出620駐車場精算所隣)
TEL 022-395-8818 Mail fbunno1@sage.ocn.ne.jp
HP <http://fbunno1.wixsite.com/home>



山へのアプローチはひとつじゃない

市民ライター 阿部哲也

登山というと、重装備で時間をかけて高い山に登る印象がありませんか。実は、蕃山での散策や、秋保二口での沢歩きなど、様々な楽しみ方があります。「朋友会」は、山の魅力を伝え、安全登山の啓発や自然保護活動に取り組んでいます。20代から70代まで、100名を超える会員が所属し、2018年7月には創立50周年を迎えます。山を楽しむ人をサポートするため、山行企画管理部や教育部など5つの部会と運営委員があります。

登山者の裾野拡大を目的に、一般や初心者向きに、道具の使い方講習会や、会員でない方も参加できる募集登山に力を入れています。副会長で、教育部の講習担当でもある矢部恭子さんも入会当時は初心者で、登山の知識はありませんでした。「できることが増えると山での楽しみ方は増える。入会した時に先輩から教わったように、今度は私が伝えたい」と話します。



▲経験豊富な会員のサポートつきで沢登りに挑戦。

会長の橋田明良さんは「山を楽しむには安全管理が一番大切」と強調します。山行企画管理部では、登山に行く会員が事故に遭わないよう目を配っています。事前に計画書を提出してもらい、無理のない計画の提案など、アドバイスすることもあります。安全かつ様々な山の楽しみを提案し、山の新しい可能性に気づいてもらえるようにサポートしているのだと感じました。

■連絡先
日本勤労者山岳連盟 宮城県連盟 朋友会
HP <http://www.mwaf-foryou.jp>